Madhyamakāvatāra-ṭikā Chap.12-v.5 和訳研究

松　本　恒　爾

はじめに—MA[Ṭ]において批判される「ある者」について—

本稿は，Candrakīrti の著作 *Madhyamakāvatāra*（以下 MA）及びその自注（*-bhāṣya,* 以下 MA[Bh]）Chap.12-v.5 に対する Jayānanda による註釈 *Madhyamakāvatāra-ṭīkā*（以下 MA[Ṭ]）の和訳研究である。

この MA[Ṭ]という文献の特徴を簡単にいうならば，MA 及び MA[Bh]に対する忠実な逐語釈であり独自の議論を展開することはほとんどない。しかし，本稿において和訳を行った箇所においては， MA 及び MA[Bh]に対する註釈が一度中断され，「ある者」の五智説に対する独自の批判が展開されている点で注目に値する。

ところで，この五智批判において，最も関心をひくことは，MA[Ṭ]において批判される「ある者」が，いったい何者であるかということであろう。残念ながら，「ある者」の名前が直接言及されることはない。しかし，そこで説かれる「ある者」の五智説を検討したところ，それが Abhayākaragupta の五智説と非常によく一致することに，偶然にも気づいた。

ここで，MA[Ṭ] Chap.12-v.5 の和訳を提示する前に，これら両者の五智説の比較を通して，「ある者」が Abhayākaragupta である可能性を検討してみたい。

「ある者」の五智説

まず，「ある者」の五智説についてであるが，その概要は次の記述から理解することができる。

[「ある者」の主張]

「ここで，ある者は世尊に幻のような自性をもつ智が存在すると主張し，さらに，それは勝義として不生であるから，智も不生であると述べ，さら

Acta Tibetica et Buddhica 5: 43-89, 2012.
© Faculty of Buddhism, Minobusan University, JAPAN

に，その智は還滅門として五つである。すなわち，法界清浄智，大円鏡［智］，平等性［智］，妙観察［智］，成所作［智］である。」

（'dir 'ga' zhig ni bcom ldan 'das la sgyu ma'i rang bzhin gyi ye shes yod par 'dod la/ de yang don dam par skye ba med pa'i phyir shes pa yang skye ba med pa yin no zhes brjod la/ ye shes de yang ldog pa'i sgo nas lnga ste/ chos kyi dbyings shin tu rnam par dag pa'i ye shes dang / me long lta bu dang / mnyam pa nyid dang / so sor rtog pa dang / bya ba sgrub pa'i ye shes so//）

また，この記述にもとづき，「ある者」の五智説の特徴をまとめるならば，次のようになると考えられる。

［「ある者」の五智説の特徴］

特徴(1)：転依（āśrayaparāvṛtti）を前提とする五智を承認する。
特徴(2)：五智は幻のような自性をもつと主張する。
特徴(3)：五智は勝義としては不生という中観派的立場をとる。

ここで，特徴(1)において，「転依を前提とする」という限定がなされるのは，先の記述の直後に，転依を説く Candragomin による著作*Kāyatrayāvatāra（以下*KTA）と考えられる偈頌[1]が，自身の五智説を根拠付けるために，「ある者」によって引用されるからであり[2]，また，MA[Ṭ]の著者 Jayānanda によっても五智説を承認されているからである。

ただし，識から智への換質をいう転依を前提とする「ある者」の五智説が，MA Chap.12-v.4[3]で説かれるような認識は不生起であるという主張に従う Jayānanda によ

---

[1] *Kāyatrayāvatāra という題名はチベット語訳（*sKu gsum la 'jug pa*）からの還梵である。*KTA については，Skilling[1990]及び，佐久間[1992][1993]を参照。

[2] 本稿 MA[Bh]及び MA[Ṭ]Chap.12-v.5 の校訂テキストと和訳 2-1 を参照。

[3] MA Chap.12-v.4 は以下のようなものである。和訳については，MA[Bh]における MA のテキストを底本とし，MA1, MA2 を参照しつつを行った。
「不生起が真実であって，知性も生起を離れている時，それは形象に依ることから，それ（生起を離れている知性）から真実が理解されるようなものである。例えば，心がある形象をもつものとなり，そのことによって，その対象が遍知される。このような言語習慣に依って［真実が］理解されるのである。」**[MA Chap.12-v.4]**
MA1 Chap.12-v.4 : P.241b7-8, N.243a6-7.
gang tshe skye med de nyid yin zhing blo yang skye ba dang bral ba//

って，そのままに承認されているわけではない。彼によっては，仏において五智が存在すると所化が考える限りにおいて五智説が承認されていのである[4]。

Jayānanda によってこのような五智説の承認がなされなければならなかった理由は，五智説が瑜伽行派の文献のみならず，仏教タントラ文献においても頻繁に説かれるようになり，彼が生きた十二世紀初頭から中頃[5]には仏教徒の間で広く承認されるようになっていたからであると考えられる。

Abhayākaragupta の五智説と「ある者」の五智説との比較

Abhayākaragupta は，Jayānanda とほぼ同年代の十一世紀後半から十二世紀初頭にかけて活躍した顕密兼学の大学匠である。彼は仏教タントラに対する多くの註釈や儀軌を残す一方で，チベット大蔵経の中観部に収められる *Munimatālaṃkāra*（以下 MMA）という論書も残している。

ここでは，この MMA の記述を提示しつつ，そこに説かれる Abhayākaragupta の五智説を明らかにし，「ある者」の五智説と比較していく。まず，提示するのは，MMA Chap.4 における五智に関する記述である。

[MMA における五智に関する記述] [6]

---

de tshe de yis de rnams brten las de nyid rtogs par brjod bya ste//
ji ltar sems ni gang gi rnam pa can du gyur pa de yis yul//
de yongs shes pa de bzhin tha snyad nye bar brten nas rig pa yin//

MA2 Chap.12-v.4 : D.216a7-b1, P.261b3-4, C.213a6-7, N.263a1-2.
gang tshe skye med de nyid yin zhing blo yang skye ba dang bral ba//
de tshe de rnams sten las de yis de nyid rtogs pa lta bu ste//
ji ltar sems ni gang gi rnam pa can du 'gyur ba de yis yul//
de yongs shes pa de bzhin tha snyad brten nas rig pa yin//

MA[Bh] Chap.12-v.4 : LVP[1907-12] p.357 *l*.20-p.358 *l*.3, D.330b3-4, P.391a1-2, C.331a2, N.394b5-6.
gang tshe skye med de nyid yin zhing blo yang skye ba dang bral ba//
de tshe de rnam (D., P., C., N. rnams) **bsten** (LVP[1907-12], P., N. rten) **las de yis de nyid rtogs** (P., N. rtog) **pa lta bu ste//**
ji ltar sems ni gang gi rnam pa can du 'gyur ba de yis yul//
de yongs shes pa de bzhin tha snyad nye bar bsten (LVP[1907-12], P., N. rten) **nas rig pa yin//**

4 本稿 MA[Bh]及び MA[Ṭ]Chap.12-v.5 の校訂テキストと和訳 4-3 を参照。

5 Jayānanda の在世年代については，van der Kuijp[1993] を参照。

6 MMA Chap.4 : D. 274a5-b2, P.370a3-b2.（P.の割り註は省略した。）
ye shes gzhan gsum yang gnas gyur pa ste/ gang slob dpon Tsa ndra go mis gsungs pa/
nyon mongs can yid gnas gyur pa// mnyam nyid ye shes brjod par bya//
so sor rtog pa'i ye shes ni// yid kyi rnam shes nyid de'o// **[*KTA *v.1]**
de dag longs spyod rdzogs sku nyid// chos la rdzogs longs spyod ston phyir//
byang chub sems dpa' chen po rnams// chos la rdzogs longs spyod phyir yang // **[*KTA *v.2]**
ha cig me long ye shes kyang // longs spyod rdzogs pa'i sku ru rtogs (P. *adds* so.) //
de yang de la rgyu nyid phyir// nye bar btags (P. brtags) las de bzhin gzhan// **[*KTA *v.3]**
dbang po lnga yi (P. yis) rnam shes gang // de ni don kun yongs su 'dzin (P. *adds* phyir.)//
sems can kun gyi don du ni// bya bsgrub pa tsam nyid thob// **[*KTA *v.4]**

［五智のうち］その他の三つの智（平等性智，妙観察智，成所作智）も転依したものである。

［*KTA において］Candragomin により，［次のように］言われている。

「汚染意が転依したものが，平等性智と述べられるべきである。妙観察智は意識［が転依したもの］こそがそれである。」**[*KTA *v.1]**

「それらは，受用身である。法の受用を現わすから，また，偉大な菩薩達は法の受用を因とするからである。」**[*KTA *v.2]**

「ある者は，大円鏡智をも受用身と理解する。それ（大円鏡智）もそれ（法身）を因とするからである。比喩表現（*upacāra）として，そのように他の者は［理解する］。」**[*KTA *v.3]**

「五根の識，それはすべての対象をよく把握するから，［それによって，］すべての衆生の利益のために，成所作智だけこそが獲得される。」**[*KTA *v.4]**

「また，それ（成所作智）は，常にあらゆる場合に，［衆生の］時間のままに，思いのままに［変化する］諸仏の変化身である。あらゆる変化の因であるからである。」**[*KTA *v.5]**

「ある者は意こそを変化身であると理解する。［そして，］五根の識，それが受用身である［と理解する］。」**[*KTA *v.6]**

—と，このように，これら五智は清浄であり，世間を超越しており，世俗として，最高の無漏なる法界［を理解することから］から生じたもので

---

de yang rtag par thams cad du// dus ji bzhin dang bsam ji bzhin//
sangs rgyas rnams kyi sprul sku ste// sprul pa kun gyi rgyu nyid phyir// **[*KTA *v.5]**
kha cig yid kyi kho na la// sprul pa'i sku nyid du ni rtog/ dbang po lnga yi rnam shes gang // de yi longs spyod rdzogs skur ro// **[*KTA *v.6]**

zhes so// (P. *omits* //.) de ltar ye shes lnga po 'di rnmas ni yongs su dag pa'i 'jig rten las 'das pa'i kun rdzob tu mchog tu zag pa med pa'i chos kyi dbyings las nye bar skyes pa ste de'i rang bzhin rnams so//

あり，それ（法界）の諸々の自性である。

この MMA の記述から，転依を前提とし，世俗として生起する五智が，Abhayākaragupta によって承認されていることが理解されるだろう。そして，このことは,「ある者」の五智説の特徴(1)「転依を前提とする五智を承認する」ことと，特徴(3)「五智は勝義としては不生という中観的立場をとる」こととに一致する。

さらに，この MMA の記述においても，自身の五智説を根拠付けるために，*KTA が引用されているが，これは，翻訳者の違いによりテキストが若干異なっているものの，先に述べた「ある者」が引用する*KTA と全く同じものである。このことも，「ある者」が Abhayākaragupta であるということの一つの根拠になると考えられる。

このように，まず，Abhayākaragupta の五智説が，「ある者」の五智説の特徴(1)と特徴(3)とに一致することを確認することができた。では，特徴(2)「五智は幻のような自性をもつと主張する」ことについてはどうであろうか。これについては，次のような MMA Chap.3 における仏の諸法，つまり，仏のもつ諸々の美徳に関する記述から確認することができる。

［MMA における仏の諸法に関する記述］[7]

> その時，それら（仏の無漏法）の自性は法身である。客塵を離れることにより無漏なるものであり，転依により変化したものであり，世間を超越することにより法界を本質とするものであり，あらゆる場合に清浄なるものである戯論を離れた理解を本質とする菩提分等のそれら仏の諸法が，ど

---

[7] MMA Chap.3 : D. 218a3-b1, P.286a1-b2.（P.の割り註は省略した。）
de'i tshe gang rnams kyi rang bzhin chos kyi sku yin pa glo bur ba'i dri ma dang bral ba las zag pa med pa/ gnas gyur pas yongs su gyur pa/ 'jig rten las 'das pas chos kyi dbyings kyi ngo bo rnam pa thams cad yongs su dag pa spros pa dang bral bar rtogs pa'i (P. *reads* med pa'i *instead of* dang bral bar rtogs pa'i) bdag nyid (P. *omits* bdag nyid) byang chub kyi phyogs la sogs pa'i sangs rgyas kyi chos de rnams sku cis bsdus she na/ ngo bo nyid kho nas te/ bag chags dang bcas pa'i sgrib pa ma lus pas dben pas rang bzhin med pa nyid kyi bdag nyid can gyi chos nyid tsam yin pa nyid kyi phyir la/ de rnams kyi mtshan nyid tha dad pa ni de rnams kyi rgyu'i gnas skabs kyi rjes su 'brang bas kun rdzob pa'o// de nyis kyi phyir/ (P. *omits* /.) gang phyir bden pa bden gyur las// tha mi dad pa nyid du 'dod// ces pa dang / gang zhig rten cing 'brel 'byung ba // de nyid khyod ni stong par bzhed// ces pa'i rigs pas chos dang chos nyid la tha dad med pa'i phyir/ chos de rnams kyang kun rdzob tu yod pa rnams so// de nyid kyi phyir sgyu ma'i rang bzhin can gyi chos de rnams rtogs pas khong du chud pa / (D. *omits* /.) yang dag par rdzogs pa'i sangs rgyas kho na'i so so rang gis rig par bya ba ni ngo bo nyid kyi sku'o// de bzhin du dBu ma la 'jug par/
skye med de bzhin nyid do gang tshe blo yang skye ba dang bral ba// (D. *omits* //.)
de'i tshe de yis de bzhin nyid rtogs bzhin te de'i rnam par bsten (P. sten) **pa'i phyir//** (D. /)
ji ltar sems ni gang gi rnam par 'byung ba de ni des ni yul// (D. /)
yongs su shes ltar de'i tha snyad nye bar blangs nas rig par gyur pa'o [MA Chap.12-v.4]
zhes slob dpon Zla ba grags pas gsungs so//

のような身によって，まとめられるのかというならば，自性［身］こそに
よってである。

［自性身は,］習気を伴う障害が無余であることから, 実際には (*satyam),
無自性たる本質を有するものである法性のみ（*dharmatāmatra）である。［そ
れ故に,］それら（仏の諸法）の特徴が各々であることは，原因である依り
所（＝法性）に従うことから，世俗である。

［また,］それ故に,「何故なら，真実は真実となるから，不離であると
主張される」ということと,「縁起ということ，それをあなたは空と説いた」
ということの道理（*yukti）によって，法と法性において別異は存在しない
から，それら［仏の］諸法も諸々の世俗有（*saṃvṛtisat）である。それ故に,
幻のような自性をもつそれら［仏の］諸法が理解されることにより覚り，
正等覚の自内証されたもの（*pratyātmasaṃvedya）が，自性身である。

同様に，*Madhyamakāvatātra* において―

「不生起が真如（*tathatā）である。知性も生起を離れている時，その形象
（知性の不生起）によることから，真如が理解されるようにである。例え
ば，心はあることの形象を生じ，あることは，そのこと（形象を生じるこ
と）によって，それが対象であると遍知するような，その言語習慣に依っ
て［真如が］理解されるだろう」**[MA Chap.12-v.4]** [8]

―と ācārya Candrakīrti によって言われている。

ここで，五智をはじめとする仏の諸法が世俗有であり，それらが幻のような自性をもつものであるとが Abhayākaragupta によって主張されている。そして，この主張が,「ある者」の五智説の特徴(2)に一致することは明らかである。

さらに，これはあくまで,「ある者」が Abhayākaragupta であることが前提となる推測であるが， MA[Ṭ]において，独自の批判が展開された最たる理由とは，この MMA の記述のように，MA が Abhayākaragupta によって引用されているからではないだろうか[9]。

---

[8] MMA に引用されるテキストの読みをいかした翻訳なので，註(3)において提示した MA Chap.12-v.4 の翻訳とは訳語等が若干異なっている。

[9] MMA においては，たびたび MA 及び MA[Bh]が引用されている。本稿で提示した以外の MA

何故ならば，転依を前提とする五智説を主張する Abhayākaragupta によって，認識の不生起を説く MA が引用されることは，MA 及び MA[Bh]に対する忠実な註釈者であろうとする Jayānanda からするならば，恣意的な引用にほかならないと考えられるからである。

「ある者」＝ Abhayākaragupta の問題点

以上のように，Abhayākaragupta の五智説と「ある者」の五智説とは非常によく一致することから,「ある者」が Abhayākaragupta である可能性は高いと考えられる。しかし，この「ある者」が Abhayākaragupta であると断定するには，必ず明らかにしなければならない問題が残っている。その問題とは，「ある者」が作ったという偈頌の出典についてである。

［「ある者」の出典不明の偈頌］[10]

「煩悩が燃やされず，草の頂点を［断じる］ように，［煩悩が］断じられる」
（nyon mongs ma bsregs rtswa rtse bzhin// spangs pa nyid du mdzad pa yin//.）

もし「ある者」が Abhayākaragupta であるならば，この偈頌は，彼による何かしらの著作からの引用でなければならない。しかし，筆者が調査した限り，MMA においてこの偈頌を見いだすことができなかった。あるいは，MMA 以外の Abhayākaragupta の著作[11]の調査を行うならば，この偈を見いだすことができるかもしれないが，筆者の怠惰により，未だそれらの調査行ってはいない。この偈頌については，引き続き調査したいと考えているが，識者の御教示も請いたい。

とりあえず，この偈頌の出典が明らかになるまでは，「ある者」とは，Abhayākaragupta もしくは，その思想[12]を継承した人物[13]とするにとどめておきたい。

及び MA[Bh]が引用については，Vose[2009] p.34 n.113 を参照。

10 本稿 MA[Bh]及び MA[Ṭ]Chap.12-v.5 の校訂テキストと和訳 4-2-3 を参照。

11 磯田[1984] pp.320-319 には，チベット大蔵経に収められている Abhayākaragupta の著者リストが提示されている。また近年，この Abhayākaragupta の著作の中で，MMA やその名前だけしか知られていなかった *Madhyamakamañjarī* のサンスクリット原典が，チベット自治区において現存していることが明らかになった（Ye[2009] pp.324-325 参照）。*Madhyamakamañjarī* がどのような構成や内容をもつ論書であるは不明であるが，題名からすると Abhayākaragupta の中観思想が説かれた論書であろう。漠然とであるが，「ある者」の出典不明の偈頌は，この *Madhyamakamañjarī* のから引用されたのものではないかと筆者は考えている。いずれにせよ，MA[Bh]とともに，これら Abhayākaragupta の著作のサンスクリット原典がいち速く公開されることを期待したい。

12 mKhas grub rje の sTong thun chen mo において，Abhayākaragupta は，Śāntarakṣita 系統の瑜伽行

〔追記〕

初校を提出した段階で，「ある者」の五智説の特徴として重要なものを看過していたことに気がついた。それは，五智が三身にまとめられると「ある者」によって説かれていることである（和訳 2-1 を参照）。そして，MMA においては，四身説をとる Haribhadra が批判され，三身説が主張されているので，この特徴も Abhayākaragupta の五智説と一致する。MMA における Haribhadra の四身説批判については，以下の論文を参照。

磯田熙文 : Abhayākaragupta の Haribhadra 批判，印度学仏教学研究 vol.30-2 (1982).

・・ :『Abhisamayālaṃkāra』の三身説と四身説，印度学仏教学研究 vol.34-1 (1985).

［自立論証］中観派の論師として分類されている。（Ruegg[1981]pp.114-115，Cabezón[1992]p.82 を参照）

13 もし，「ある者」が Abhayākaragupta であないならば，その候補として，Phywa pa chos kyi seng ge（1109-1169）の可能性が考えられる。Deb ther sngon po によると，Abhayākaragupta と同じく Śāntarakṣita 系統の中観思想を継承する Phywa pa は，弥勒の五法に多くの註釈を残し，Candrakīrti の中観思想に対して否定的な立場を取ったらしい。しかし， Phywa pa 自身が僧院長を十八年間務めることとなるサンプ寺（gSang phu ne'u thog）を Candrakīrti の中観思想を継承する Jayānanda が訪れ，論争を行い勝利すると，Phywa pa の弟子の幾人かは，Candrakiīrti の中観思想に転向してしまったらしい（Roerich[1949]pp.332-334 を参照）。

MA[Bh]及び MA[Ṭ] Chap.12-v.5 の校訂テキストと和訳

凡例

(1) 以下に提示するのは，MA[Bh]及び MA[Ṭ] Chap.12-v.5 のチベット語訳校訂テキストとその和訳である。

(2) MA[Bh]の校訂テキストは，LVP[1907-12] [14]を底本とし，D., P., C., N.の四つの版本と校合しつつ作成した。一方，MA[Ṭ]の校訂テキストは，D.を底本とし，P., C., N.と校合しつつ作成した。いずれの場合も，最も相応しいと考えられる読みを採用し，それ以外の読みは，脚注に提示した。

(3) MA[Bh]及び MA[Ṭ]いずれの校訂テキストにおいても，MA の語は，**bold** により示し，MA[Ṭ]において引用される MA 及び MA[Bh]の語は，下線によって示した。

(4) MA[Ṭ]において引用される Candragomin の*KTA に対しては,「ある者」によって註釈がなされている。その註釈に引用される*KTA の語は，校訂テキスト及び和訳のいずれの場合も，二重下線によって示した。

(5) MA[Bh]及び MA[Ṭ]いずれの校訂テキストにおいても, 訂正は *Italic* によって示し，その訂正を行った根拠を脚注において提示した。

(6) MA[Ṭ]において MA 及び MA[Bh]に対する註釈が行われる際, その本文が引用されている。しかし，その読みが，MA1，MA2，MA[Bh]いずれの読みのとも一致しない場合がある[15]。その場合，なるべく，MA[Ṭ]において引用されるテキストの読みをいかすようにした。ただし，明らかに誤りと考えられる場合は，訂正した読みを *Italic* によって示し，その訂正を行った根拠を脚注において提示した。

(7) MA[Bh]及び MA[Ṭ]の校訂テキストにおいて，日月点（nyi zla）等は省略し，句読点（tsheg shad, gnyis shad, bzhi shad）については基本的に D.に従った。しかし，他の版本のそれを採用した場合も少なからずあり，その際の注記は省略した。

(8) 校訂テキスト及び和訳のいずれにおいても，固有名詞や特定の人物を指すと考えられる語については，波線によって示した。

(9) MA[Bh]及び MA[Ṭ]いずれの和訳においても，[] 及び（）は，訳者による補いである。[] は，文脈を明らかにするために用い，（）は，指示代名詞等の語の内容を明らかにするために用いた。

---

[14] LVP[1907-12]において使用された版本は，P.及び N.である。また，MA のテキストについては，それらの版本の MA[Bh]だけでなく MA1 及び MA2 も参照されているようである。

[15] それぞれの訳者が参照していたサンスクリット原典の違いもさることながら，MA[Ṭ]のチベット語訳者が，MA1，M2，MA[Bh]いずれのチベット語訳者とも異なっていることもその理由に挙げられよう。これらの翻訳事情については，稲葉[1966][1967]を参照。

(10) チベット語から推測されるサンスクリット語には＊を付し，これも（）で囲んだ。

略号

BBh[V] : *Buddhabhūmi-vyākhyāna*, see 西尾[1940].

C. : Co ne edition of the Tibetan Tripiṭaka, digitized by TBRC.

D. : sDe dge edition of the Tibetan Tripiṭaka, reproduced as a facsimile copy from the original blockprint preserved at the Faculty of the Letters, the University of Tokyo.

JĀA : *Jñānālokālaṃkāra*, see 木村[2004].

*KTA : *sKu gsum la 'jug pa* (**Kāyatrayāvatāra*), The lost work of Candragomin, see Skilling[1990] and 佐久間[1992][1993].

MA : *Madhyamakāvatāra.*

MA1 : The first rivised Tibetan translation of *Madhyamakāvatāra*, 大谷 No.5261, TBRC "W22704-3363-eBook.pdf"(壬生 No.3252).

MA2 : The second rivised Tibetan translation of *Madhyamakāvatāra*, 東北 No. 3861, 大谷 No.5262, TBRC "W1GS66030-I1GS66133-eBook.pdf", TBRC "W22704-3363-eBook.pdf" (壬生 No. 3253).

MA[Bh] : *Madhyamakāvatāra-bhāṣya*, 東北 No.3862, 大谷 No. 5263, TBRC "W1GS66030-I1GS66133-eBook.pdf", TBRC "W22704-3363-eBook.pdf" (壬生 No.3254). And see LVP[1907-12].

MA[Ṭ] : *Madhyamakāvatāra-ṭīkā*, 東北 No. 3870, 大谷 No.5271, TBRC "W1GS66030-I1GS66135-eBook.pdf", TBRC "W22704-3365-eBook.pdf" (壬生 No.3262).

MMA : *Munimatālaṃkāra*, 東北 No. 3903, 大谷 No.5299. And see 磯田[1984][1987][1991][1998].

MMK : *Mūlamadhyamakakārikā*, see de Jong [1977]

MSA : *Mahāyanasūtrālaṃkāra*, see Lévi[1907].

MSA[Bh] : *Mahāyānasūtrālaṃkāra-bhāṣya,* see Lévi[1907].

N. : sNar thang edition of the Tibetan Tripiṭaka, digitized by TBRC.

P. : Peking edition of the Tibetan Tripiṭaka, reprinted from the original copy kept in the Otani University.

PP : *Prasannapadā,* see LVP[1903-13].

RGV : *Ratnagotravibhāga,* see Johnston[1950].

TBRC : Tibetan Buddhist Resource Center.

VC : *Vajracchedikā prajñāpāramitā*, see Conze[1957].

【MA[Bh]】LVP[1907-12]p.358 *l.* 17-p.360 *l.*4, D.330b7-331a7, P.391a6-b7, C.331a6-b6, N.395a3-b2.

gang yang **mkhyen po med par khyed kyis**[16] **gzhan la 'di lta bu'o [MA Chap.12-v.3d]** zhes su zhig ston zhes [D.331a1] smras pa de la yang brjod par bya ste/ shes pa 'di skye ba med pa [17] kho na yin[18] pa bden mod kyi 'jig rten na de nyid ston pa mi srid pa yang ma yin no//

ji [LVP[1907-12] p.359] ltar zhe na/ brjod par bya ste/

de yi longs spyod rdzogs sku bsod nams kyis//
zin dang sprul pa mkha' gzhan las de'i mthus//
sgra gang chos kyi de nyid ston 'byung ba//
de las 'jig rten gyis kyang [C.331b1] de nyid rig/ [MA Chap.12-v.5]

de bzhin [P.391b1] gshegs pa rnams ni gzugs kyi sku gang la bzhugs nas chos kyi dbyings mngon sum du mdzad pa'i sku bsod nams brgyas zin pa/ bsam gyis mi khyab cing sna tshogs pa'i sku mnga' ba de[19] ni ngo bo de dang der byang chub sems dpa' rnams kyi chos kyi longs spyod kyi rgyu nyid du yongs su 'gyur ba yin te/ gang las da dung du yang [20]...“'jam dpal skye ba med cing 'gag pa med pa zhes bya ba 'di ni de bzhin gshegs pa'i tshig bla dags[21] so[22]”...[20] zhes bya ba de lta bu la sogs pa gsung rab kyi tha snyad sna tshogs pa dag rtogs[23] par 'gyur ba/

bsod nams brgya[24] las bskrun pa [25]...de las...[25] de bzhin gshegs pa'i [26]...byin gyi rlabs...[26] kyis[27] sgra gang zhig 'byung ba de las 'jig rten rnam pa[28] de lta bu'i chos nye bar ston pa'i snod du gyur pas de kho na nyid phyin ci ma log par nges par 'gyur ro//

---

16 P., N. *read* kyi.
17 D., C. *add* de.
18 LVP[1907-12], P., N. *read* yod.
19 C. *reads* da.
20 JĀA : Cf. Kimura[2004] p.571 *ll.* 3-4.
anutpādo 'nirodha iti Mañjuśrīs tathāgatasyaitad adhivacanam /.
21 LVP[1907-12] *reads* dwags.
22 P., N. *omit* so.
23 LVP[1907-12], P., N. *read* rtog.
24 [LVP[1907-12] *reads* [b]rgya. P. *reads* rgya.
25 D., C. *omit* de las.
26 LVP[1907-12], P. *read* byin gyis brlabs. N. *reads* byin gyi brlabs.
27 D., C. *read* gyi.

bsod nams kyis[29] 'dus byas pa'i sku las 'byung ba lta zhog gi [N.385b1] de'i [30]...byin gyi rlabs...[30] kyis sprul pa dag las chos[31] kyi de kho na nyid gsal bar byed pa'i sgra gang zhig 'byung ba de las kyang 'jig rten gyis[32] de kho na nyid nges par 'gyur ro//

sprul pa dag las 'byung ba 'ba' zhig tu ma zad kyi gzhan yang de'i [LVP[1907-12] p.360] mthus sems dang sems las byung ba 'jug pa med du zin kyang / nam mkha' dang[33] gzhan rtswa[34] dang shing dang rtsig pa dang brag la sogs pa las de'i mthus sgra gang zhig 'byung ba de las kyang 'jig rten gyis[35] de nyid rig pa yin no//

---

28 P, N. *omit* pa.
29 LVP[1907-12], P., N. *read* kyi.
30 LVP[1907-12], P., N. *read* byin gyis brlabs.
31 LVP[1907-12], P., N. *omit* chos.
32 LVP[1907-12], P., N. *read* gyi.
33 D., C. *read* dag.
34 LVP[1907-12], P., N. *read* rtsa.
35 LVP[1907-12], P., N. *read* gyi.

【**MA[Bh]**】

さらに，「知る主体を欠いて，あなた以外に，『［真実は］このようである』と誰が理解させるのか」**[MA Chap.12-v.3d]**と言われた。このことについても述べられるべきである。この智は不生であることこそは確かであるが，世間の人々に真実を説示することがないのでもない。

どのようにしてかというならば，［次のように］述べられる。

「彼（＝仏）の受用身は［百の］福徳によって把握され，変化［身］，虚空，他のものから，その威力によって法の真実を説示が生じる声，それから世間の人々も真実を知る。」**[MA Chap.12-v.5]**

如来達は色身に住して，法界を現前させる。［その色］身は百の福徳によって把握され，不可思議であり，様々な体（姿）が存在する。それはそれぞれの本質として，菩薩達にとって法を受用する因こそとして変化するのである。その百の福徳より生じたものから，如来の加持によって何かしらの声が生じて，それから，世間の人々もそのような種類の法を教授される器となるから，顛倒なく真実を確定する。このことから，今でも，「*Mañjuśrī* よ，不生不滅というこれは如来の付称（*adhivacana）である」というこのようなものをはじめとする種々の［仏の］言葉（*vacana）である言語習慣（*vyavahāra）が理解されるだろう。

福徳により作られた体はいうまでもなく，その加持によって諸々の変化［身］から，法の真実を明らかにする何かしらの声が生じ，それからも世間の人々は真実を確定するだろう。

諸々の変化［身］からだけに限らず，さらにまた，その威力によって，心・心所が活動を欠いたとしても，虚空からや草，木，壁，石等の他のものからも，その威力による何かしらの声が生じて，それからも世間の人々は真実を確定するのである。

【MA[Ṭ]】D.325b5-331b3, P.393a8-400b5, C.328b3-334b1, N.377b4-384b2.

1. *Commentary on* MA[Bh] Chap.12-v.5.

mkhyen po[36] med par zhes bya ba la sogs pa gang smras pa de la lan bstan par bya ba'i phyir/ gang yang zhes bya ba la sogs pa gsungs te/ [P.393b1] shes pa 'di skye ba med pa kho na yin par bden mod kyi zhes bya ba ni dngos po thams cad la skye ba ma grub pas ye shes kyang skye ba med pa nyid do//

2. *Someone's theory of five knowledges* (pañca jñānāni).

'dir 'ga' zhig ni bcom ldan 'das la sgyu ma'i rang bzhin gyi ye shes yod par 'dod la/ de yang don dam par skye ba med pa'i phyir shes pa yang skye ba med pa yin no zhes brjod la/ ye shes de yang ldog pa'i sgo nas lnga[37] ste/

(1)chos kyi dbyings shin tu rnam par dag pa'i ye shes dang / **(2)**me long lta bu dang / **(3)**mnyam pa nyid dang / **(4)**so sor rtog pa dang / **(5)**bya ba sgrub pa'i ye shes so//

de la [D.326a1] **(1)**chos kyi dbyings shin tu rnam par dag pa'i ye shes ni bag chags dang bcas pa'i sgrib pa gnyis dang bral ba'i snying rje dang shes rab gnyis su med pa[38] spangs pa dang rtogs pa phun sum tshogs pa mnga' ba de kho na nyid bsgom pa rab kyi [N.378a1] mthar gyur pa chos kyi dbyings su thugs su chud pa gang yin pa'o//

(2)me long lta bu'i ye shes ni gang du mtha' med pa'i khams gsum gyi sems can dang cig shos ring ba dang / cig shos kyi yul las 'das pa dang / ma 'ongs [39] pa dang da ltar ba'i dngos po rdul phra rab dang / gnas skabs so sor[40] me long la gzugs brnyan bzhin du thams cad la gsal bar snang ba'o//

(3)mnyam pa nyid kyi ye shes ni gang gis de ltar gzugs [C.329a1] brnyan lta bur snang ba'i 'gro ba rnams la chos kyi bdag med pa mnyam pa nyid du thugs su chud nas sems can thams cad la rtag tu bdag nyid dang mnyam pa'i thugs brnyes pa'o//

(4)so sor rtog pa'i ye shes ni gang gis bcom ldan 'das de ltar mnyam par bzhag pas rnam par mi rtog pa kho na yin du zin kyang / sngon gyi smon lam dang / sems can rnams

36 D., C. *read* pa.
37 D. *reads* lta.
38 D., C. *read* pa'o.
39 N. *adds* ba.
40 P., N. *read* so.

kyi bsod nams kyi dbang gis [P.394a1] sems can rnams kyi spyod pa so sor rtog[41] pa'o//
(5)bya ba grub pa'i ye shes ni gang gis de ltar rtogs pa'i 'gro ba rnams la bya ba sgrub par mdzad pa'o//

2-1. *Quotation from* Candragomin*'s* *Kāyatrayāvatāra.

ye shes lnga po 'di rnams ni sku gsum gyis bsdus pa ste/ de ltar yang slob dpon Tsan dra go mis[42] /

nyon mongs yid ni gnas gyur la// mnyam nyid ye shes zhes ni brjod//
yid kyi rnam shes gang yin te[43]// so sor rtog[44] pa'i ye shes yin// **[*KTA *v.1]**

de dag longs spyod rdzogs sku nyid// chos kyi longs spyod gzigs phyir dang //
byang chub sems dpa' chen po rnams// chos kyi longs spyod rgyu yin phyir// **[*KTA v.2]**

me long lta bu'i ye shes kyang // kha cig longs spyod rdzogs skur brjod//
kha cig de yang de rgyu yis// btags[45] nas de bzhin brjod pa yin// **[*KTA *v.3]**

sgo lnga'i dbang po'i shes pa gang // des don kun ni 'dzin nyid phyir//
sems can kun gyi don phyir du// bya ba sgrub pa'i ye shes brnyes// **[*KTA *v.4]**

de yang thams cad thams [N.378b1] cad du// dus dang [D.326b1] bsam pa ji lta bar//
sangs rgyas ye shes sprul sku ste// sprul pa thams cad mdzad phyir ro// **[*KTA *v.5]**

kha cig yid ni kho na la// sprul pa'i sku nyid du ni 'dod//
sgo lnga'i rnam shes gang yin des// longs spyod rdzogs pa'i sku ru brjod// **[*KTA *v.6]**

ces gsungs so//

---

41 P., N. *read* rtogs.
42 P., N. *read* mi yis.
43 D., C. *read* de.
44 P., N. *read* rtogs.
45 D., C. *read* brtags.

2-1-1. *Commentary on* *KTA *v.1.

de la nyon mongs pa can gyi yid ni kun gzhi rnam par shes pa la brten cing / kun gzhi rnam par shes pa la dmigs pa bdag tu lta ba dang / bdag tu rmongs pa dang / bdag tu nga rgyal ba dang / bdag tu zhen pa zhes bya ba'inyon mongs pa bzhi dang mtshungs par ldan pa yid la byed pa'i bdag nyid can no//

gnas gyur pa ni bag chags dang bcas pa'i nyon mongs pa dang shes bya'i sgrib pa spangs pa'i phyir bdag tu lta ba [P.394b1] la sogs pa dang [C.329b1] bral ba bdag dang gzhan mnyam pa nyid kyi ye shes brnyes pa'o//

yid kyi rnam shes gang yin te[46]// zhes bya ba la sogs pa ni gang chos la dmigs pa'i rnam par rtog pa'i shes pa gnas gyur pa la so sor rtog pa'i ye shes zhes pa'o//

2-1-2. *Commentary on* *KTA *v.2.

de dag ces bya ba ni mnyam pa nyid dang / so sor rtog pa'i ye shes so// longs spyod pa'i sku'i sgra 'jug pa'i rgyu mtshan gnyis ston pa ni/ chos kyi longs spyod gzigs phyir dang // zhes bya ba la sogs pa gsungs te/

ston pa po[47] rang nyid kyis ston pa'i tshe de dag gi mchog tu kha na ma tho ba med pa'i theg pa chen po'i chos la[48] longs spyod pa dga' ba dang / bde ba nyams su myong ba dang byang chub sems dpa' chen po rnams de'i dbang gis bai ḍū rya la sogs pa'i rang bzhin can gyi sku las sa bcu pa'i byang chub sems dpa' rnams kyis[49] chos ston pa thos nas/ dga' ba dang bde ba nyams su myong bas so//

2-1-3. *Commentary on* *KTA *v.3.

me long lta bu'i ye shes kyang zhes bya ba la sogs pa na kha cig gis me long lta bu'i ye shes kyang longs spyod rdzogs pa'i skur [N.379a1] brjod do[50]// de la bai ḍū rya [51] la sogs pa'i rang bzhin gyi sku dang / chos ston par snang bas so//

kha cig de yang de rgyu yis// zhes bya ba la sogs pa ni kha cig me long lta bu'i ye shes la

---

[46] D., C. *read* te.
[47] P., N. *omit* po.
[48] P., N. *omit* la.
[49] P., N. *read* kyi.
[50] D., C. *read* de.
[51] P., N. *add* rgya.

chos kyi skur brjod pa yin te/ rnam pa thams cad du mi gYo ba'i phyir ro//

de la mi gYo ba ni rnam pa thams cad du yod pa [D.327a1] dang / rnam par rtog pa gYo bar mi nus pa'i phyir ro//

de nyid kyi phyir/ mdo sde rgyan las/

me long ye shes gYo ba med// **[MSA Chap.9-v.67a]** [52] ces gsungs so//

de yang chos kyi sku dang ro gcig pa'i phyir 'thad pa yin no zhes bya ba'o[53]/ de nyid kyi phyir bcom ldan 'das rnams la dran pa nyams pa mi mnga' ba rigs pa yin te/ dus [P.395a1] thams cad du dngos po thams cad me long bzhin du snang bas so// ye shes gzhan rnams ni dus res 'ga' ba yin pas gYo bar mi nus pa'i phyir ro// gdul bya rnams kyis de ltar brtag pas so// des na me long lta bu'i ye shes la longs spyod rdzogs pa'i skur gang brjod pa de ni longs spyod rdzogs pa'i sku'i rgyu yin pa'i phyir ro//

2-1-4. *Commentary on* *KTA *v.4.

sgo lnga'i dbang po zhes bya ba la sogs pa ni/ gang sgo lnga'i rnam par shes pa gnas gyur pa de sems can thams cad kyi don du gzugs [C.330a1] dang sgra la sogs pa yongs su 'dzin pas bya ba grub pa'i ye shes zhes bya ba'i ming brnyes pa yin no// de nyid sprul pa'i sku yin no zhes bstan pa yin/

2-1-5. *Commentary on* *KTA *v.5.

de yang thams cad thams cad du zhes bya ba la sogs pa gsungs te[54] / de yang zhes bya ba ni bya ba grub pa'i ye shes so// thams cad thams cad du zhes bya ba ni dus dang yul dagtu'o// bsam pa ji lta ba bzhin zhes bya ba ni sems can rnams kyi bsam pa bzhin du'o//

2-1-6. *Commentary on* *KTA *v.6.

---

[52] MSA Chap.9-67 : Cf. Lévi[1907] Tome II p.46 *ll.*16-17.
ādarśajñānam acalaṃ trayajñānaṃ tadāśritam / samatāpratyavekṣāyāṃ kṛtyānuṣṭhāna eva ca //.

[53] D., C. *read* ba.

[54] D., C. *read* pa yin.

kha cig yid ni kho na *la*[55]// zhes bya ba ni kha cig yid kyi rnam par shes pa gnas gyur pa la sprul [N.379b1] pa'i sku zhes brjod de/ yid kyi rnam par shes pa gnas gyur pa las sems can gyi don mdzad pa'o//

sgo lnga'i rnam shes zhes bya ba la sogs pa ni/ gang sgo lnga'i rnam par shes pa de longs spyod rdzogs pa'i skur brjod pa ste/ khyad par can gyi bai ḍū rya[56] la sogs pa'i rang bzhin can gyi sku la sogs par snang ba 'byung bas so//

2-2. *Someone's establishment of five knowledges.*

ye shes lnga po 'di rnams kyang ldog pa tha dad pa'i sgo nas tha dad pa yin gyi rgyu pa tha dad pa la yod pa'i shes pa lnga rang bzhin du tha dad pa ni ma yin te/

(1)'di ltar gcig nyid la chos kyi dbyings mkhyen pa'i sgo nas chos kyi dbyings shin tu rnam par dag pa'i ye shes su rnam par [P.395b1] 'jog par byed pa yin la/

(2)de nyid rten cing 'brel par 'byung ba'i chos [D.327b1] thams cad yongs su shes pa'i sgo nas me long lta bu'i ye shes su rnam par 'jog pa dang /

(3)rten cing 'brel par 'byung ba'i chos de rnams mnyam pa nyid du rtogs pa'i sgo nas de nyid la mnyam pa nyid kyi[57] ye shes su rnam par 'jog cing /

(4)sems dang sems las byung ba'i rten cing 'brel par 'byung ba'i chos rnams la 'dod chags la sogs par yongs su shes pa'i sgo nas de nyid la so sor rtog pa'i ye shes su rnam gzhag byed la/

(5)'dod chags la sogs pa'i spyod pa'i sems can rnams la bsam pa ji ltar 'os pa bzhin du chos ston pa yongs su mkhyen pa'i sgo nas de nyid la bya ba sgrub pa'i ye shes rnam gzhag[58] byed pa yin no//

des na ye shes gcig nyid la cha dang char tha dad par rtogs nas ye shes lngar rnam par 'jog pa yin no// [C.330b1] ye shes gcig gis bsdus pa'i dran pa nye bar gzhag pa la sogs pa'i yon tan rnams kyang tshul 'di bzhin du rig par bya ste/ de rnams ye shes gcig dang ro gcig tu gyur pas so// mtshan nyid tha dad pa yod pa ni rgyu'i gnas skabs la brten nas [N.380a1] yin par rig par bya'o//

---

55 D., P., C., N. *read* las. *Hawever* *KTA *v.6 *reads* la.
56 P., N. *read* rgya.
57 P. *reads* gyi.
58 P., N. *read* bzhag.

ye shes de yang chos kyi dbyings [59] shin tu rnam par dag pa'i ye shes la sogs pa'i ye shes bzhi'i rang bzhin can la ni dngos gzhi'i rnam gzhag[60] byed pa yin no[61]/ de'i dbang gis chos ston pa yongs su rdzogs pa'i phyir ye shes de nyid bya ba sgrub pa'i cha nas rjes thob kyi ye shes su rnam par 'jog pa yin no//

de ltar sangs rgyas kyi ye shes sgyu ma lta bur 'dod pa rnams kyi rnam gzhag[62] de ltar yin no//

3. Jayānanda*'s critique of someone's theory of five knowledges.*

gzhan rnams kyis[63] [64]…ni rnam gzhag…[64] 'di ltar ston te/ gal te bcom ldan 'das la ye shes yod par [P.396a1] 'dod na ye shes de bcom ldan 'das la snang ngam mi snang / gal te mi snang bar 'gyur na/ de'i tshe "de yod pa ma yin no" zhes ji ltar tha snyad byed/ gal te snang bar 'gyur na don dam par snang ba de yod pa cig snang ba yin nam 'on te med pa cig snang ba yin/

de la phyogs dang po ni ma yin te/ "bdag las ma yin" zhes bya ba la sogs pas ye shes don dam par bkag pas so// don dam par med kyang snang na ni bcom ldan 'das rnams la ma rig pa yod par thal bar 'gyur ro// de [D.328a1] ci'i phyir zhe na/ "ma rig pa'i rkyen gyis 'du byed / 'du byed kyi rkyen gyis rnam par shes pa" zhes bya ba gsungs pas so//

3-1. *Someone's reply : The* Buddha*'s compassion farces knowledge to appear.*

gal te " ""ma rig pa'i rkyen gyis 'du byed"" ces bya ba la sogs pa 'dis nyon mongs pa dang bcas pa'i 'khor bar gyur pa'i rnam par shes pa la ma rig pa'i rkyen can du gsungs pa yin gyi shes pa thams cad la ni ma yin te/ bcom ldan 'das kyi ye shes ni snying rje'i rgyu can yin te/ snying rje'i stobs kyis bcom ldan 'das rnams 'khor ba ji srid du bzhugs pas so// dper na mar me dang po 'bru mar gyis[65] rgyu can yin du zin kyang 'bru mar zad nas mar blugs[66] na mi ldog pa de bzhin du 'dir [N.380b1] yang shes pa ma rig pa'i rgyu can yin du zin kyang ma rig

---

59 D., C. *add* su.
60 P., N. *read* bzhag.
61 P., N. *read* la.
62 P., N. *read* bzhag.
63 D., C. *read* kyi.
64 P., N. *omit* ni rnam gzhag.
65 P., N. *read* gyi.
66 P., N. *read* blags.

pa log nas snying rje'i stobs kyis ye shes [C.331a1] snang bas bcom ldan 'das rnams ma rig pa dang bcas par thal bar mi 'gyur ba'o//"

3-2. **Jayānanda***'s critique : The knowledge preceeded by compassion does not appear on the* **Buddha.**

de la kha cig na re bcom ldan 'das rnams[67] la snying rje'i stobs kyis ye shes snang du chug/ de ltar na yang ma rig pa log par mi 'gyur te/

'di ltar gal te snying rje'i dbang gis ye shes snang bar gyur na/ de'i[68] don dam par[69] yod pa'i ye shes snang ba ma yin te/ don dam [P.396b1] par yod pa sngar bkag zin pas so//

don dam par med par snang ba gang yin pa de 'khrul pa med par mi rigs te/ dper na rab rib can la med pa'i skra shad dang zla ba la sogs pa snang ba 'khrul pa med na mi rigs la/ de bzhin du 'dir yang med par snang bar 'khrul pa med na 'byung bar mi 'gyur ba yin la/ 'khrul pa yang ma rig pa nyid do// des na sangs rgyas la snying rje sngon du 'gro ba can gyi ye shes mnga' na ma rig pa dang bcas par thal bar 'gyur ba yin no//

gal te"de bzhin gshegs pa la ma rig pa yod kyang skyon ci yod"ce na/ ma yin te phyi rol pa'i 'dod chags dang bral[70] ba rnams bzhin du bcom ldan 'das rnams la yang ma rig pa sngon du 'gro ba'i nyon mongs pa 'jug par thal bar 'gyur ba'o//

3-3. *Someone's reply : The* **Buddha** *differes from non-buddhist saints***.**

de yang ma yin te/ gang gi phyir phyi rol pa'i 'dod chags dang bral bas ni ma rig pa ma rig pa nyid du ma shes pa yin la bcom ldan [D.328b1] 'das rnams kyis ma rig pa [71] nyid du mkhyen pa yin la/ de nas[72] de sngon du 'gro ba'i nyon mongs pa 'jug pa ma yin no//

3-4. **Jayānanda***'s critique : Someone who understands the ignorance* **(avidyā)** *is not the* **Buddha.**

de yang ma yin te/ gal te de bzhin gshegs pa rnams kyis ma rig pa nyid du mkhyen du zin

---

[67] P., N. *omit* rnams.
[68] P., N. *omit* de'i.
[69] P., N. *read* pa.
[70] N. *reads* phral.
[71] P., N. *adds* ma rig pa.
[72] P, N. *read* na.

kyang de bzhin gshegs pa la ma rig pa yod pa nyid du khas blangs pa yin te/ dper na rab rib can rnams la skra shad la sogs pa snang ba dang[73] "nga la rab rib kyi dbang gis 'di mi bden pa snang ba yin no" snyam du 'khrul par yongs su shes kyang 'khrul pa mi ldog pa yin la/ de [N.381a1] bzhin du 'dir yang ngo// de ltar na ni bcom ldan 'das kyis[74] nyon mongs pa bag chags dang bcas pa spangs pa yin no zhes gang brjod pa de rigs pa ma yin no//

3-5. *Someone's reply : The* Buddha *is someone who has the ability to eliminate obstructions* (āvaraṇām).

de yang ma yin te/ bcom ldan 'das rnams ma rig pa spong ba'i nus pa mnga' [P.397a1][C.331b1] ru zin kyang bcom ldan 'das rnams kyi thugs rje'i dbang gis ma rig pa mi spong ba yin te/ gzhan du na chad par 'gyur bas so// bag chags dang bcas pa'i nyon mongs pa'i sgrib pa dang shes bya'i sgrib pa spangs par gsungs pa ni spong bar nus pa mnga' ba'i phyir gsungs pa yin no//

de nyid kyi phyir/ gzhan[75] las/

nyon mongs ma bsregs rtswa[76] rtse bzhin// spangs pa nyid du mdzad pa yin//

zhes gsungs so//

de ltar kha cig bcom ldan 'das la ye shes mnga' bar bzhed do//

4. Jayānanda*'s theory of five knowledges :*
Any kind of knowledge does not appear on the Buddha.

gzhan rnams kyis 'di ltar ston pa yin te/"bcom ldan 'das rnams ni mtshan ma med cing rtsol ba med pa'i lam rab [77] kyi mthar son pas ye shes kyi mtshan ma mi snang ba dang / sngar bstan pa'i rigs pas rang rig mi 'thad pa'i phyir ye shes ji ltar snang bar 'gyur/ gzhan

---

[73] P., N. *read* nang.
[74] P., N. *read* kyi.
[75] *The verse must be quoted from some work of* Abhayākaragupta *except* MMA (=*Madhyamakamañjarī* ?).
[76] P., N. *read* rtsa.
[77] D., C. *add* rib.

yang gal te chos kyi dbyings shin tu rnam par dag pa dang / rten cing 'brel par 'byung ba'i chos rnams dmigs par bya ba yin na de'i tshe de dag la dmigs pa'i ye shes 'byung zhing snang bar 'gyur ba las 'on kyang sangs rgyas kyi sar dmigs par bya ba dang / dmigs par byad pa dag phan tshun mnyam pa nyid du gyur pas chos kyi dbyings shin tu rnam par dag pa dang / rten cing 'brel par 'byung ba'i chos rnams dang ye shes rnams stong pa nyid dang ro gcig tu gyur pas ci ltar na ye shes [D.329a1] snang bar 'gyur"zhes pa'o//

4-1. *The buddha-being does not extinct without appearance of the knowledge.*

gal te "ye shes snang ba med na ci ltar chad par mi 'gyur zhing sems can gyi [N.381b1] don ji ltar 'grub par 'gyur" zhe na/ "de yang ma yin te/ " "khyod kyi ye shes mi snang na chad par 'gyur" " zhes brjod pa de/ bcom ldan 'das rnams chad par rtog gam/ 'on te [P.397b1] ye shes chad par rtog/ de la bcom ldan 'das rnams ni ma yin te/ bcom ldan 'das rnams chos kyi sku'i rang bzhin can yin pas so// chos kyi sku yang yon tan rnams dang ro gcig pa'i de bzhin nyid" ces bya ste/

4-1-1. *Quotation from* Vajracchedikā.

de ltar yang 'phags pa rdo rje gcod pa[78] las/

gang dag nga la gzugs su mthong // gang dag nga la sgrar shes pa//
log par spong bar zhugs pa ste// skye bo de dag nga mi mthong //

sangs rgyas rnams ni chos nyid lta// 'dren pa rnams ni chos kyi sku//
chos nyid rig par bya min pas// des ni rnam par shes mi nus//

zhes gsungs [C.332a1] te/

4-1-1-1. *Commentary on* Vajracchedikā.

[78] Cf. Conze[1957] p.56 *l*.18-p.57 *l*.4.
ye māṃ rūpeṇa cādrākṣur ye māṃ ghoṣeṇa cānvaguḥ / mithyāprahāṇaprasṛtā na māṃ drakṣyanti te janāḥ //
dharmato buddhā draṣṭavyā dharmakāyā hi nāyakāḥ / dharmatā ca na vijñeyā na sā śakyā vijānitum //

'di'i don ni gang gzugs kyi sku mthong ba tsam gyis sam/ sgra rjes su [79]...thos pa...[79] tsam gyis“kho bos de bzhin gshegs pa mthong ngo// shes so”snyam du sems can de rnams ni sangs rgyas mthong ba la gegs byed pa'i las kyi sgrib pa spong ba'i don du log par zhugs pa yin te de nyid las gus par zhugs pas[80] de rnams kyis nga mthong ba ma yin zhing phyis kyang mthong bar mi 'gyur ba'o//

gal te gzugs gyi sku[81] mthong ba tsam gyis sangs rgyas mthong bar mi 'gyur gyi/ 'di de mthong ba dang rjes su mthun pa yin no snyam du sems na/ de'i tshe nga mthong bar 'gyur ba yin gyi gang gi tshe ma mthong ba mngon par zhen pa yod na ni de'i tshe ji ltar mthong bar 'gyur ro// de'i chos nyid mthong ba gang yin pa de nyid sangs rgyas mthong ba yin te/ de de dang ro gcig pa yin pas so//

chos kyi sku'i rang bzhin chos nyid de yang gzugs mthong ba dang / sgra thos pa tsam gyis so so'i skye bos khong du chud par mi nus so// don dam par ni yongs su dag pas kyang ma yin na [N.382a1] shes pa dang shes bya dag nub par 'gyur bas so//

des na/“sangs rgyas rnams ni [P.398a1] chos nyid lta//”zhes bya ba gsungs te/ chos thams cad ma mthong ba nyid kyang sangs rgyas mthong ba'o//

4-1-2. *Quotation from* Mahāyānasūtrālaṃkāra

de nyid kyi phyir gzhan [D.329b1] las kyang /

thams cad la ni khyad med kyang // de bzhin nyid dag gyur pa la//
de bzhin gshegs *nyid* [82] de yi phyir// lus can thams cad de snying can// **[MSA Chap.9-v.37]** [83]

zhes gsungs so//

---

[79] D., C. *read* mthong ba. P. *reads* thob pa.
[80] P., N. *read* pa.
[81] D. *reads* spu
[82] D., P., C., N. *read* brjod. *Hawever the verse quoted after this in* MA[Ṭ] (D.354b2-3, P.429b6-8) *is as below* :
'phags pa byams pa'i zhal gyis kyang theg chen po rgyud bla ma nas/ thams cad la ni khyad med kyang // de bzhin nyid (P. *adds* ni.) dag gyur pa la (P. *omits* la.)// de bzhin gshegs nyid de yi phyir// lus can thams cad (P. *reads* mtha' dag) de snying can// (P. *omits* //.) zhes pa 'dis kyang theg chen po gcig nyid su gsungs pa yin no//.
[83] Cf. Lévi[1907] Tome II p.40 *ll.*13-14.
sarveṣām aviśiṣṭāpi tathatā śuddhim āgatā / tathāgatatvaṃ tasmāc ca tadgarbhāḥ sarvadehinaḥ //

des na bcom ldan 'das rnams chos kyi sku'i rang bzhin can yin pas chad par 'gyur ba yod pa ma yin no//

4-2. *Even the* Buddha*'s knowledge is non-self-existence* (niḥsvabhāva).

gal te ye shes chad par rtog na de yang mi rigs te/ de chad kyang bcom ldan 'das rnams chos kyi sku'i rang bzhin can yin pas chad pa med pa'i phyir ro//
kho bo cag la ci zhig gnod par 'gyur/ gzhan yang ye shes la dang por rang bzhin yod par 'gyur na de phyis chad pa las chad par smra bar 'gyur la/ 'on kyang thog ma nas kyang de la rang bzhin med pa'i phyir gang zhig chad par 'gyur/

4-2-1. *Quotation from* Ratnagotravibhāga

de skad du yang /

'di la dor ba ci zhig yod// 'di la bsnan pa ci yang med//
yang dag nyid la yang dag lta// yang dag mthong nas rnam par grol// **[RGV Chap.1-v.154]** [84]

zhes gsungs so// des na ye shes la chad [C.332b1] pa yod pa ma yin no//

4-2-2. *Accomplishment of benefit for all beings* (sattva) *by* Saṃbhogakāya *and* Nirmāṇakāya.

sems can gyi don yang chad pa ma yin te/ longs spyod rdzogs pa'i sku dang sprul pa'i skus 'gro ba'i don rdzogs par mdzad pas so// de yang phyis 'chad par 'gyur ba'o//
bag chags dang bcas pa'i nyon mongs pa dang / shes bya'i sgrib pa spong ba'i nus pa mnga' bas bcom ldan 'das rnams bag chags dang bcas pa'i nyon mongs pa dang shes bya'i sgrib pa spangs par 'jog la/ rnam pa thams cad du ma spangs pa dang / bcom ldan 'das rnams kyis snying rje'i stobs kyis ma rig pa bzhag pa yin no zhes bya ba de gang las gsungs/

---

[84] Cf. Johnston[1950] p.76 *ll.* 1-2
nāpameyam ataḥ kiṃcid upaneyaṃ na kiṃcana / dṛṣṭavyaṃ bhūtato bhūtadarśī vimucyate //

4-2-3. Jayānada*'s critique of the verse written by someone.*

“nyon mongs [P.398b1] ma bsregs”zhes bya ba la sogs pa de mdzad pa'i tshig yin gyi don mdo las ni [N.382b1] ma[85] yin no// yang na 'di'i don ni“khyed kyis nyon mongs pa ma bsregs te/ zhig par mdzad pa ma yin te/ nyon mongs pa rnams la rang bzhin med pas so// 'on kyang nyon mongs pa rnams kyi rang bzhin med par thugs su chud pas rtswa'i[86] rtse mo bzhin du spong bar mdzad pa yin no”zhes pa'o// des na 'gal ba yod pa ma yin no//

4-3. Jayānanda*'s establishment of five knowledges.*

gal te bcom ldan 'das la ye shes lnga'i rnam gzhag byas pa gang yin pa de ni ji ltar rigs pa yin zhe na/ [D.330a1] de la lan bstan par bya ste/

“gang gi tshe chos kyi sku'i dbang gis longs spyod rdzogs pa'i sku dang / sprul pa'i sku dag las sngon gyi smon lam dang sems can rnams kyi bsod nams kyi dbang gis gdul bya rnams la ye shes lnga dang rjes su mthun pa'i chos ston pa'i[87] snang ba[88] 'byung bar 'gyur la/ de'i tshe bcom ldan 'das rnams la [89]...ye shes lnga...[89] mnga' ba yin no zhes gdul bya rnams kyis yongs su rtog pa yin te/

(1)'di ltar gang gi tshe chos kyi dbyings shin tu rnam par dag pa dang rjes su mthun pa'i chos ston[90] par gyur pa ste/ de'i tshe bcom ldan 'das la chos kyi dbyings shin tu rnam par dag pa'i ye shes mnga' ba yin no zhes yongs su rtog pa yin no//

(2)gang gi tshe sems can dang cig shos la sogs pa'i dngos po yongs su shes par ston par snang bar 'gyur ba de'i tshe bcom ldan 'das la me long lta bu'i ye shes mnga' ba yin no zhes yongs su rtog pa [C.333a1] yin no// [91]

(3)gang gi tshe bdag dang gzhan mnyam pa nyid la sogs par ston par snang bar 'gyur ba de'i tshe bcom ldan 'das la mnyam pa nyid kyi ye shes mnga' ba yin no zhes yongs su rtog pa yin no//

---

[85] P., N. *omit* ma.
[86] P., N. *read* rtsa'i.
[87] P., N. *read* par
[88] P., N. *read* bar.
[89] D., C. *read* chos kyi dbyings shin tu rnam par dag pa'i ye shes *instead of* ye shes lnga .
[90] P., N. *omit* ston.
[91] P., N. *add* zhes yongs su rtog pa yin no//.

(4)gang gi tshe sems can gyi spyod pa la sogs [P.399a1] pa ston par snang bar 'gyur ba de'i tshe bcom ldan 'das la so sor rtog pa'i ye shes mnga' ba nyid yin no zhes[92] yongs su rtog pa yin no//

(5)gang gi tshe 'dod chags la sogs pa la spyod pa'i gnyen po'i chos ston [N.383a1] par snang bar 'gyur ba de'i tshe bcom ldan 'das la bya ba grub pa'i ye shes mnga' ba yin no zhes yongs su rtog pa yin no//

de nyid kyi phyir bcom ldan 'das la chos kyi sku'i rgyu can ye shes rnam pa lnga mnga' ba yin pas ye shes rgyun chad par 'gyur ba yang ma yin no//

yon tan rnams kyi rnam gzhag kyang de ltar shes par bya'i/ chos kyi sku'i gnas skabs na bcom ldan 'das la yon tan tha dad par mnga' ba ni ma yin te/ de rnams chos kyi sku dang ro gcig pas so//

gang gi phyir bcom ldan 'das rnams chos kyi sku'i rang bzhin yin zhing[93] / bcom ldan 'das thams cad kyi chos kyi skur ro gcig pa de'i phyir chos kyi sku la mngon par byang [D.330b1] chub pa'i dus dang / gnas pa'i dus la mtha' yod pa ma yin no"zhes 'chad par 'gyur ro//

4-3-1. *Quotation from* Mahāyānasūtrālaṃkāra

de ltar yang mdo sde rgyan las/

rigs kyi dbye dang don med min// rdzogs dang thog ma med nyid dang //
dri med rten la dbye med phyir// sangs rgyas gcig min du ma'ang min// [MSA Chap.9-v.77] [94]

zhes gsungs so//

4-3-1-1. *Commentary on* Mahāyānasūtrālaṃkāra[95]

---

[92] P. *omits* zhes.
[93] P., N. *read* cing.
[94] Cf. Lévi[1907] Tome II p.48 *ll.*3-4.
gotrabhedād avaiyarthyāt sākalyād apy anāditaḥ / abhedān naikabuddhatvaṃ bahutvaṃ cāmalāśraye //
[95] *The commentary is quite simillar to* MSA[Bh] Chap.9-v.77 : Cf. Lévi[1907] Tome II p.48 *ll.*5-11.
eka eva buddha ity etan neṣyate / kiṃ kāraṇam / gotrabhedāt / anantā hi buddhagotrāḥ sattvāḥ / tatraika evābhisaṃbuddho nānye 'bhisaṃmotsyanta iti kuta etat / puṇyajñānasaṃbhāravaiyarthyaṃ ca syād anyeṣāṃ bodhisattvānām anabhisaṃbodhān na ca yuktaṃ vaiyarthyam / tasmād avaiyarthyādapi naika eva buddhaḥ sattvārthakriyāsākalyaṃ ca na syāt / buddhasya buddhatve kasyacid apratiṣṭhāpanād etac ca

'di'i don ni sangs rgyas gcig nyid du yang 'dod pa ma yin te/ [96] ci'i phyir zhe na/ rigs tha dad pa'i phyir te/ sangs rgyas kyi rigs can sems can mtha' yas bas de la gcig nyid mngon par rdzogs par sangs rgyas la gzhan rnams ci'i phyir mngon par rdzogs par sangs rgyas par 'gyur ba ma yin no zhes pa'o//

bsod nams dang ye shes kyi tshogs don med par yang 'gyur te/ byang chub sems dpa' gzhan rnams mngon par rdzogs par [P.399b1] 'tshang mi rgya bas so//

don med pa yang ma yin te/ de'i phyir sangs rgyas pa nyid yin no// sangs rgyas rnams kyis sems [C.333b1] can gyi don rdzogs par yang mi 'gyur te/ 'ga' zhig kyang sangs rgyas nyid la ma bkod pas kyang mi rigs pas so//

dang po'i sangs rgyas 'ga' [N.383b1] zhig kyang yod pa ma yin te/ tshogs ma bsags pa'i sangs rgyas nyid mi rigs pa dang / sangs rgyas gzhan med na tshogs sog pa mi rigs so zhes thog ma med pa'i phyir sangs rgyas gcig nyid kyang rigs pa ma yin no//

sangs rgyas mang po nyid kyang 'dod pa ma yin te/ zag pa med pa'i khams la chos kyi sku dbye ba med pa'i phyirzhes pa'o// de'i phyir chos kyi sku la ltos[97] nas mngon par byang chub pa'i dus dang gnas pa'i dus la mtha' yod pa ma yin no//

des na chos gyi sku la ltos[98] nas dang po'i sangs rgyas kyi rnam gzhag kyang rigs pa yin te/ don dam par chos kyi sku'i rang bzhin gcig nyid yin pas so//

[99]...mang bar...[99] 'gyur bas chog go/ dkyus ma nyid brjod par bya ste/

5. *Commentary on* MA Chap.12-v.5

gal te ye shes skye ba med pa yin na de'i tshe mkhyen pa po med par 'jig rten na de kho na nyid ston pa ji ltar srid par 'gyur zhe na/ de la lan ni/ 'jig rten na 'di[100] nyid ston pa mi srid pa yang ma yin no zhes bya ba gsungs so// de rgyas par bstan par bya ba'i phyir/ <u>ji ltar zhe na</u> zhes bya ba la [D.331a1] sogs pa gsungs so//

---

na yuktam / na ca kaścid ādibuddho 'sti vinā saṃbhāreṇa buddhatvāyogādvinā cānyena buddhena saṃsthānā / saṃbhārā / yogādityanāditvādapyeko buddhau na yuktaḥ / bahutvamapi neṣyate buddhānāṃ dharmakāyasyābhedādanāsrave dhātau /

[96] N. *adds* de.
[97] P., N. *read* bltos.
[98] P., N. *read* bltos.
[99] P., N. *read* mangs par.
[100] P. *reads* da.

de'i zhes bya ba ni/ chos kyi sku'i bdag nyid kyi sangs rgyas so//

longs spyod rdzogs sku zhes bya ba ni 'og min gyi gnas na gang bzhugs pa'o//

bsod nams brgya[101] **yis zin dang** zhes bya ba ni bsod nams kyi tshogs bsags pa las byung bas so//

sprul pa mkha' gzhan las zhes bya ba la/ **sprul pa** [P.400a1] ni 'dir sku bltams[102] pa la sogs pa bstan nas/ mngon par byang chub pa la sogs pa gang yin pa'o//

mkha' ni nam mkha'o// **gzhan las** te/ shing la sogs pa las chos ston pa'i sgra gang byung ba des chos kyi de kho na nyid ston par 'gyur ba yin te/ chos rnams kyi de kho na nyid stong pa nyid kyi mtshan nyid can ston par byed pa gang yin pa'o// **de'i mthus** zhes bya ba ni chos kyi sku'i dbang gis so//

de *las*[103] **'jig rten**[104] **kyis kyang de nyid rig** ces bya ba ni sgra de las 'jig rten gyis skye ba med pa dang / 'gag [N.384a1] pa med pa'i rang bzhin can gyis de [C.334a1] kho na nyid khong du chud par 'gyur ba'o//

'di'i don ni chos kyi sku'i dbang gis longs spyod rdzogs pa'i sku dang sprul pa'i sku dag dang / nam mkha' la sogs pa gzhan las kyang gdul bya rnams la ston par snang bas de kho na nyid ston par srid pa yin no zhes pa'o//

6. *Commentary on* MA[Bh] Chap.12-v.5

de 'grel pas bstan par bya ba'i phyir/ de bzhin gshegs pa zhes bya ba la sogs pa gsungs te/ gzugs kyi sku gang la bzhugs nas zhes bya ba ni longs spyod rdzogs pa'i sku la bzhugs nas so//

chos kyi dbyings zhes bya ba ni de bzhin nyid kyi rang bzhin can chos kyi sku'o//

bsod nams brgyas zin pa zhes bya ba ni brgya smos pa ni nye bar mtshon pa yin te/ bsod nams kyi tshogs mtha' yas pa smos pa yin te/ bsod nams kyi tshogs ni longs spyod rdzogs pa'i sku'i rgyu yin pas so//

bsam gyis mi khyab pa zhes bya ba ni sa bcu la gnas pa las gzhan pa'i byang chub sems dpa' rnams kyi yul ma yin pas so//

---

[101] MA[Bh] *has no correspondence to* brgya.
[102] P., N. *read* bltam.
[103] D., P., C., N. *read* la. *Hawever* MA[Bh] *reads* las.
[104] D., P., C., N. *add* pa'i las. *Hawever* MA[Bh] *omits it* .

sna tshogs pa'i gzugs[105] mnga' ba zhes bya ba ni/ bai ḍū rya'i rang bzhin can la sogs pa'i sku ston pa'o// de nyid rgyas [P.400b1] par ston pa ni/ de ni ngo bo nyid de dang der zhes bya ba la sogs pa gsungs [D.331b1] so// gang las zhes bya ba ni 'jig rten pas de kho na nyid nges pa las so//

da dung [106] yang zhes bya ba ni dus[107] da ltar yang ngo// 'jam dpal zhes bya ba la sogs pas ni de bzhin gshegs pa ni de bzhin nyid kyi rang bzhin can yin la/ de la skye ba dang 'gag pa med pas so//

de bzhin gshegs pa'i [108]...byin gyi rlabs...[108] kyis zhes bya ba ni chos kyi sku'i [109]...byin gyi rlabs...[109] so//

rnam pa de lta bu'i chos nye bar ston pa'i snod du gyur pa zhes bya ba ni phyin ci ma log pa'i de kho na nyid bstan pa'i snod du gyur [N.384b1] pas so//

de la [110]...byin gyi rlabs...[110] kyis zhes bya ba ni chos kyi sku'i [111]...byin gyi rlabs...[111] kyis so//

brag la sogs pa las zhes bya ba la sogs pa'i sgras ni rnga la sogs pa bsdu[112] bar bya'o//

de'i mthus zhes bya ba ni chos kyi sku'i mthus so// sems dang sems las byung ba 'jug pa med du zin kyang zhes bya ba ni rtsol ba med du zin [C.334b1] kyang ngo //

---

[105] MA[Bh] *reads* sku.
[106] MA[Bh] *adds* du.
[107] P., N. *omit* dus.
[108] P. *reads* byin gyis brlabs. N. *reads* byin gyi brlabs.
[109] P., N. *read* byin gyis brlabs.
[110] P., N. *read* byin gyis brlabs.
[111] P., N. *read* byin gyis brlabs.
[112] P., N. *read* brdung.

【MA[Ṭ]】

1. MA[Bh] Chap.12-v.5 に対する註釈

「知る主体を欠いて」**[MA Chap.12-v.3d]**云々と言われたこと，それに答えるために，「さらに」云々と言われたのである。「この智はまさに不生であることこそは確かであるが」というのは，一切の存在状態（*bhāva）に生起が成立しないので，智も不生である［ということである］。

2. 「ある者」の五智説

ここで，「ある者」は世尊に幻のような自性をもつ智（*jñāna）が存在することを主張し，さらに，それは勝義として不生であるから，智も不生であると述べ，さらに，その認識は還滅門として五つである。すなわち，（１）法界清浄智，（２）大円鏡［智］，（３）平等性［智］，（４）妙観察［智］，（５）成所作［智］である。

その場合—

（１）法界清浄智とは，習気を伴う二障を離れた悲があり，不二なる慧があり，完全な断と証得があり，真実を修習することが究極になった者が，法界を覚知することである。
（２）大円鏡智とは，無限の三界の衆生や，遠くのその他の者や，その他の者の境涯における過去・未来・現在のおびただしい出来事やそれぞれの場所についての一切を，鏡における像のように，明瞭に現すことである。
（３）平等性智とは，このように［鏡における］像によう顕現した諸々の趣について法無我という平等性を覚知してから，一切の衆生について常に自分と平等であるという心を獲得することである。
（４）妙観察智とは世尊が，このように［平等性に］入定してから，無分別な者になったとしても，［仏の］以前の願と衆生の福徳とによって，衆生達の行いをそれぞれ観察することである。
（５）成所作智とは，このように観察した諸々の趣について為すべきことを完成させることである。

2-1. Candragomin の**Kāyatrayāvatāra* からの引用

この五つの智は，三身によってまとめられ，また，次のように ācārya Candragomin によって—

「汚染意が転依して，平等性智と述べられ，意識［が転依したもの］それが妙観察智である。」**[*KTA *v.1]**

「それらは受用身である。［仏の］法の受用が見られるから，また，偉大な菩薩達は法の受用を因とするからである。」**[*KTA *v.2]**

「ある者は，大円鏡智をも受用身と述べる。ある者は，それ（大円鏡智）もそれ（法身）を因とするから，比喩表現（*upacāra）として，そのように述べる。」**[*KTA *v.3]**

「五つの門の根の認識，それはすべての対象を把握するから，［それによって，］すべての衆生の利益のために，成所作智が獲得される。」**[*KTA *v.4]**

「また，それ（成所作智）は，あらゆる場合に，［衆生の］時間と思いとの通りに，仏の智が変化する体である。一切の変化をなすからである。」**[*KTA *v.5]**

「ある者は，意こそを変化身であると主張する。［そして，］五つの門の識，それが受用身であると言う。」**[*KTA *v.6]**

—と言われている。

2-1-1. *KTA *v.1 に対する註釈

この場合,「汚染意」とはアーラヤ識に依って, アーラヤ識を認識対象（*ālambana）とする我見，我痴，我慢，我執という四煩悩と対応する作意を本質としてもつものである。

「転依」とは習気を伴う煩悩［障］と所知障とを断じたから，我見等を離れた自他の平等性智を獲得することである。

「意識［が転依したもの］それが」云々というのは，法を認識対象とする分別を

もつ認識（*[sa]vikalpajñāna）が転依したものが，妙観察智ということである。

2-1-2. *KTA *v.2 に対する註釈

「それら」とは，平等性［智］と妙観察智である。受用身という語を理解する二つの原因としての説示が，「［仏の］法の受用が見られるから，また」云々と言われる。

説示者（仏）自身が，［法を］説示する時に，それら（平等性智と妙観察智）の最高の罪過のない大乗の法を受用することを喜び，［その］喜びを受け入れて，その偉大な菩薩達の力による瑠璃等を自性としてもつ体から，十地の菩薩は説法を聞いてから喜び，［その］喜びを受け入れるからである。

2-1-3. *KTA *v.3 に対する註釈

「大円鏡智をも」云々というのは，ある者は，大円鏡智をも受用身であると言う。その場合，瑠璃等を自性とする体と説法とが顕現するからである。

「ある者は，それ（大円鏡智）もそれ（法身）を因とするから」云々というのは，ある者は大円鏡智を法身であると述べるのである。一切の場合に，不動だからである。

その場合，不動というのは，一切の場合に，存在と分別とが動くことはできないからである。

それこそ故に，*Sūtrālamkāra* において—

「大円鏡［智］は，不動である」[MSA Chap.9-v.67a]

—と言われている。

それ（大円鏡智）も法身と一味であるから合理である，ということである。それこそ故に，世尊達に失念が存在しないことは道理である。一切の時における一切の出来事が鏡［における場合］のように顕現するからである。他の智は，ある時のもの［だけ］として［一切の場合に，存在と分別とが］動くことはできないからであ

る。所化達が［法界を］このように観察するからである。このようならば，大円鏡智を受用身であると述べること，それは受用身を因とするからである。

2-1-4. *KTA *v.4 に対する註釈

「五つの門の根」云々というのは，五門の識が転依したもの，それは一切の衆生の利益として，［衆生達の］色や声等を把握するから，成所作智という名前が獲得されたものである。それこそが，変化身であると説示したのである。

2-1-5. *KTA *v.5 に対する註釈

「また，それ（成所作智）は，あらゆる場合に」云々と言われている。［その場合,］「また，それ（成所作智）は,」というのは，「［また,］成所作智が」である。「あらゆる場合に」というのは，諸々の時と境涯についてである。「思いとの通りに」というのは，「衆生達の思いのままに」［ということ］である。

2-1-6. *KTA *v.6 に対する註釈

「ある者は，意こそを」というのは，ある者は意識が転依したものを変化身であると述べ，意の転依したものから衆生利益が行われるのである。
「五つの門の識」云々というのは，五つの門をもつものの識，それは受用身であると述べる。勝れた瑠璃等を自性とする体等を現すことが生じるからである。

2-2. 「ある者」の五智の設定

これら五智も別々の還滅門として異なっているが，別々の因がある五智は自性として異なってはいないのである。
（1）このような，唯一なるものを法界と知る門として，法界清浄智が設定され，
（2）それこそが，縁起した一切法であることを遍知する門として，大円鏡智と設定され，
（3）それら縁起した法が平等であることを証得する門として，それこそが平等性智と設定され，
（4）心と心所という縁起した諸法を貪等であると遍知する門として，それこそが

妙観察智と設定され，

（５）貪等が働く衆生達に［彼らの］思い通りに望むがままに説法することを遍知する門として，それこそが成所作智と設定されるのである。

このようならば，唯一の智は，部分々々に，別々に理解されて，五智が設定されるのである。[113]…唯一の智によりまとめられた［四］念住等の諸々の徳（＝菩提分法）もこの通りに理解されるべきである。それらは唯一の智と一味となるからである。…[113] 別々の特徴があるものは，因である場所に依るので，［別々で］であると理解されるべきである。

また，その［唯一の］智は，法界清浄智等の四智を自性としてもつことについて，根本［智］の設定がなされるのである。これ（唯一の智）の力により説法は完成するから，その智こそが為すべきことの成就（成所作）の部分として，後得智と設定されるのである。

以上，仏智が幻のようであると主張する者達の設定はこのようである。

3. Jayānanda による「ある者」の五智に対する批判

他の人々（Jayānanda）は［以上の］設定を次のように説示する。もし，世尊に智が存在すると主張するならば，その智は世尊において顕現するか，あるいは，顕現しないかのどちらかであろう。もし，顕現しないならば，その時，「それは存在ではない」と言語表現されたのと同じである。もし，顕現するならば，勝義として顕現することそれは，ある存在するものが顕現するか，あるいは，ある非存在であるものが顕現するかのどちらかであろう。

その場合，第一の主張はそうではない。「自身として［生起した存在状態はありえ］ない」(na svato) [MMK Chap.1-v.1a]云々ということにより，［存在する］智［が顕現すること］は勝義として否定されているからである。勝義として非存在であっても顕現するならば，世尊達に無明が存在するということに陥ってしまうだろう。それは何故かというならば，「無明を縁として行があり，行を縁として識がある」と言われているからである。

3-1. 「ある者」の反論—仏の悲が智を顕現させる—

[113] 例えば，BBh[V]においては，仏の諸徳が五法それぞれに対応関係をもつことが述べられている。西尾[1940] 4.2（part1 pp.57-58, part 2 pp.209-210）を参照。

もしくは，［次のように，「ある者」が反論する］かもしれない。「『無明を縁として行があり』云々というこのことにより，煩悩を伴い輪廻した識を無明を縁としてもつものと言ったのであって，一切の認識についてではない。世尊の智は悲を因としてもつものであり，悲の力によって世尊達が輪廻に住する限りのものであるからである。例えば，最初の火は油という原因をもつものであったとしても，油が尽きてから，バターを注いだならば，［火は］消えないように，この場合でも，智は無明という原因をもつものであったとしても，無明が消えてから，悲の力によって智は顕現するから，世尊達が無明を伴うということに陥ってしまうことはないだろう」［と］。

3-2. Jayānanda による批判—悲を先とする智は仏に顕現しない—

その場合，「ある者」は世尊達に悲の力による智が顕現すると認めるが，このようであったとしても，無明は消えないだろう。

このように，もし悲の力によって智が顕現したとするならば，彼（「ある者」）の勝義として存在する智は，顕現することはないのである。［まず，］勝義として，［智が］存在することは，前で否定されているからである[114]。

［また，］勝義として，［智が］非存在として顕現すること，それが錯誤でないとは道理ではない，例えば，眼病をもつ者に存在しない毛や月等が顕現することが錯誤ではないならば，［そのことは］道理ではないのであって，同じように，この場合，［智が］非存在として顕現することに錯誤がないならば，ありえないことであり，［非存在の智が顕現するという］錯誤も無明にほかならない。このように，仏に悲を先とする智が存在するならば，［仏が］無明を伴うことに陥ってしまうのである。

もし，「如来に無明が存在するとしても，いったい過失が存在しようか［存在しまい］」と［「ある者」が反論する］ならば，［そうでは］ない。異教徒の貪を離れた者達のように，世尊達にも無明を先とする煩悩が働いていることに陥ってしまう。

3-3. 「ある者」の反論—仏は異教徒の聖者達とは異なる—

[114] 和訳「3. Jayānanda による「ある者」の五智批判」の箇所における MMK Chap.1-v.1 の引用による否定を指すと考えられる。

そうではない。何故なら，異教徒の貪を離れた者が無明を無明にほかならないと知るのではなく，世尊達が［無明を］無明にほかならないと知るのであって，そのことから，それ（無明）を先とする煩悩が働くことはないのである。

3-4. Jayānanda による批判—無明を理解する者が仏なのではない—

そうではない。もし，如来達が［無明を］無明にほかならないと知ったのだとしても，［そのことだけでは,］如来達に無明が存在することこそが認められているからである。例えば，眼病をもつ者達に毛等が顕現し，「私における眼病の力によるこれ（存在しない毛等）は真実ではない」と考え，錯誤だと遍知したとしても，［それは］錯誤が消えたのではない。同じように，この場合も［そう］である。このようであるならば，世尊が習気を伴う煩悩を断じた者であると述べること，それは道理ではない。

3-5. 「ある者」の反論—仏は煩悩を断じる能力もつ者である—

そうではない。世尊達は無明を断じる能力があるとしても，世尊達の悲の力によって，無明を断じないのである。さもなければ，断絶してしまうからである。［世尊が］習気を伴う煩悩障と所知障とを断じた者と言われているのは，断じる能力が存在するから［そのように］言われているのである。

それこそ故に，他において—

「煩悩が燃やされず，草の頂点を［断つ］ように，［煩悩が］断じられる」

—と言われている。

このように，「ある者」は世尊に智が存在すると説く。

4. Jayānanda の五智説—仏においていかなる智も顕現しない—

［以上のことは,］他の者達（Jayānanda）によって，次のように説示される。「世尊達は無相であり無功用の道の究極を行くので，智の原因（*nimitta）は顕現

せず，前に説示された道理によって，自己認識（*svasaṃvid）が不合理であるから[115]，どのようにして，［仏に］智が顕現しようか。あるいはまた，もし，法界清浄や縁起した諸法が認識されるべきもの（*ālambya）であるならば，その場合，それらを認識対象とした智が生起し，顕現するのかもしれないが，しかし，仏地においては，諸々の認識されるべきものと認識すべきもの（*ālambaka）が完全に平等になり，法界清浄や縁起した諸法や諸々の智である空性が一味となったのだから，どのようにして，［仏に］智が顕現するだろうか」と。

4-1. 智が顕現せずとも仏たることは断絶しない

もし，［仏に］智が顕現しないならば，どうして断絶することにならず，どのように衆生の利益が成就するだろうか，［断絶し，衆生利益は成就しないだろう］と［「ある者」が反論する］ならば，［次のように答える。］「そうではない。あなたが『［仏に］智が顕現しないならば，断絶になるだろう』と述べること，それは世尊達が断絶すると考えるか，あるいは，［仏の］智が断絶すると考えるかのどちらかであろう。その場合，［まず］世尊達［が断絶すること］はない。世尊達は法身という自性をもつからである。さらには，法身は諸々の徳と一味なる真如である」と。

4-1-1. *Vajracchedikā* からの引用[116]

さらに，次のように，聖なる「*Vajracchedikā*」において―

「私（＝仏）を色として見る者達，私を声として知る者達は誤った励みに住し，その人々は私を見ない。」

「諸仏は法性と見る。教導者達は法身と［見る］。法性は理解されることはないから，それは識別することはできない。」

―と言われている。

---

115 MA[Bh] Chap.6-vv.73-75 において行われる瑜伽行派の自己認識に対する批判を指すと考えられる。

116 PP. Chap.22 (*Tathāgata-parīkṣā*)-v.15 において，同じ引用が存在する。Cf. LVP[1903-13] p.448 *l.* 12-15.

4-1-1-1. *Vajracchedikā* に対する註釈

この意味は［次のようである。］［仏の］色身を見るだけによってや，［仏の］声を聞くことだけによって「私は如来を見た，知った」と考える者達，彼らは仏を見たとしても，障害となる業障に励むために，誤りに住する者であり，それこそから，尊敬に住するから，彼らは私（＝仏）を見る者ではなく，後にも，［仏を］見ることはないだろう。

もし，色身を見るだけによって仏を見ることにならず，このこと（仏を見ないこと）がそのこと（仏を見ること）に適っていると考えるならば，その時，私（＝仏）を見ることになるのであり，［そのようならば，］見ないことへの執着が存在する時，その時に，どのように［仏を］見るのだろうか。彼（仏）の法性を見ること，そのことこそが仏を見ることである。それ（仏）とそれ（法性）は一味であるからである。

法身の自性である法性，それも色と見ることや声を聞くことだけによって，凡夫は通達することはできないのである。勝義としては，［法界は］清浄なものとしてでさえないのであるならば，諸々の能知・所知は埋没してしまうからである。

そのようならば，「諸仏は法性と見る」と言われているのである。一切法を見ないことも仏を見ることにほかならない。

4-1-2. *Mahāyānasūtrālaṃkāra* からの引用

それこそ故に，他（*Mahāyānasūtrālaṃkāra*）においても—

「一切について差別は存在しないけれども，真如は清浄になったものであり，［清浄になった真如が］如来たること（如来性）である。それ故に，一切の肉体をもつ者（衆生）はそれ（如来性）を蔵する者である。」[MSA Chap.9-v.37]

—と言われている。

それ故に，世尊達は法身を自性としてもつから，［仏たることが］断絶するだろうことはないのである。

4-2. 仏の智でさえ無自性である

もし，［仏に智が顕現しないので，仏の］智が断絶すると理解するならば，それも道理ではない。それ（仏の智）が断絶しようとも，世尊達は法身を自性としてもつので，［仏たることの］断絶は存在しないからである。

［この場合,］我々を何者か（「ある者」）が悩ませようとして，さらにまた，もし,［仏の］智に［も］最初から自性が存在しているだろう［と反論する］ならば，それ（仏の智）は後に断絶するから，［仏の智には］断絶が言われるかもしれないが，しかし，もとより，それ（仏の智）に自性は存在しないから，いったい何が断絶しようか。

4-2-1. *Ratnagotravibhāga* からの引用

また，次のように―

「ここに何かしら捨てられるものがあるだろうか，ここに何か増大するものも存在しない。［このように］真実こそを正しく見る者は，正しく見て，解脱する。」[RGV Chap.1-v.154]

―と言われている。

それ故に，［仏の］智に断絶が存在するのではないのである。

4-2-2. 受用身と変化身による衆生利益の完成

［さらに,］衆生の利益も断絶することはない。受用身と変化身によって諸々の趣の利益が完成されるからである。そのことも後に説かれるだろう[117]。
習気を伴う煩悩［障］と所知障を断じる能力が存在するから，世尊達は習気を伴う煩悩［障］と所知障を断じることに住し，一切の場合に,［衆生を］放棄しないことと世尊達は悲の力によって無明を設定したということ，そのことは，そこ（MA Chap.12-v.9 以下）で言われている。

---

117 受用身については，MA.12-v.9 において説かれ，変化身については，MA.12-v.10 において説かれる。

4-2-3. Jayānanda による「ある者」の偈頌に対する批判

「煩悩が燃やされずに」云々というのは，彼が作った詩句であって，［この詩句の］内容は，経典からではない。あるいは，この意味は［次のようである。］「あなたによって煩悩が燃されず，破壊されることがない。諸々の煩悩には自性がないからである。けれども，諸々の煩悩の無自性を覚知することによって，草の頂点を［刈る］ように，［煩悩が］断じられるのである」と。そのようならば，矛盾が存在することはないのである。

4-3. Jayānanda による五智の設定

もし, 世尊に五智が設定されたこと, それはどんな道理であるのかというならば, それについて答える。

「法身の力による諸々の受用身と変化身から，［仏の］以前の願と衆生達の福徳の力によって所化達に五智に適った説法の顕現が生じるであろう時，その時，世尊達に五智が存在すると所化達は遍知する。

（1）このように，清浄法界に適った説法がされた時，その時，世尊に清浄法界智が存在すると，［所化達は］遍知する。

（2）衆生やその他のこと等の出来事を遍知することの説示を現すだろう時，その時，世尊に大円鏡智が存在すると，［所化達は］遍知する。

（3）自他の平等たること等の説示を現すだろう時，その時，世尊に平等性智が存在すると，［所化達は］遍知する。

（4）衆生の行い等の説示を現すだろう時，その時，世尊に妙観察智が存在すると，［所化達は］遍知する。

（5）貪等を行うことの対治である法の説示を現すだろう時，その時，世尊に成所作智が存在すると，［所化達は］遍知する。

それこそ故に，世尊に法身を因としてもつ五智が存在するので，智が断絶するこ

ともないのである。諸々の徳の設定もこのように知られるべきであり，法身という場所（*avasthā）において，世尊に様々な徳が存在するのではない。それらは法身と一味であるからである。世尊達は法身を自性とし，一切の世尊の法身は一味であるから，それ故に，法身を正等覚した時や［法身に］住する時に限界が存在するのではないのである」と［五智を設定する道理を］説明するだろう。

4-3-1. *Mahāyānasūtrālaṃkāra* からの引用

また，次のように *Sūtrālaṃkāra* においても—

「種姓の区別から，無意味ではないことから，完全であることから，無始であることから, 無垢な拠り所においては無区別であるから, 仏は一でもなく, 他でもない。」[MSA Chap.9-v.77]

—と言われている。

4-3-1-1. *Mahāyānasūtrālaṃkāra* に対する註釈

この［偈頌の］意味は［次のようである。］仏が唯一であることを主張しているのでもない。何故ならば，各々の種姓があるからである。仏の種姓をもつ衆生は無限であるから，この場合，一人だけが正等覚するとしても，他の者達はどうして覚ることがないだろうか，というのは，［仏が唯一であるならば,］福徳と智慧という資糧は無意味にもなるだろうし，他の菩薩達が正等覚することもないからである。

［しかし，実際は，福徳と智慧という二つの資糧が］無意味であることもない。それ故に，仏たること（*buddhatva）である。［さらに，仏が唯一であるならば,］諸仏が衆生利益を完全にすることもないだろう。［唯一の仏以外の］誰も仏たることに住しないからである。［それも］道理ではない。

［さらに,］何かしら本初仏が存在することもない。資糧が集積されない仏たることは道理でない。さらに，他の仏が存在しないならば，資糧を集積することは道理でない，というのは，無始であるから，仏が唯一であることも道理ではないのである。

多仏であることも主張しているのではない。無漏なる界において法身は無区別であるから，というので，それ故に，法身に依存するから，正等覚する時や住する時

に限界が存在するのではないのである。

このようならば，法身に依存して，本初仏の設定も道理なのである。勝義として法身の自性は唯一であるからである。

多くなってしまうので，［余論は］十分である。本文こそが述べられるべきである。

5. MA Chap.12-v.5 に対する註釈

もし，智が不生であるならば，その時，知る主体を欠いて，世間の人々に真実を説示することがどのようにしてあるだろうかというならば，それについての回答が，「世間の人々に真実を説示することがないのでもない」と言われる。

それが詳しく説示されるべきであるから，「どのようにしてかというならば」云々と言われる。

「彼（仏）の」というのは，「法身を本質とする仏［の］」である。「受用身」というのは，アカニシュタ天に住することである。「百の福徳によって把握され」というのは，福徳という資糧が集積されたものから［受用身が］生じるからである。「変化［身］，虚空，他のものから」という場合の「変化［身］」というのは，この場合，降誕等が示されたことから，正等覚［が示されたこと］等である。「虚空」とは，空間のことである。「他のものから」とは，木等からの説法の声，それが法の真実を説示するだろということであり，諸法の真実は空性という特徴をもつということである。「その威力［によって］」とは，「法身の力によって」である。「それから世間の人々も真実を知る」というのは，その声から世間の人々が不生不滅の自性をもつものとして，真実に通達するだろう［ということである］。

この意味は—法身の力による受用身や変化身，そして虚空等の他のものからも，所化達に［法の］説示が顕現するから，真実を説示することがあるということである。

6. MA[Bh] Chap.12-v.5 に対する註釈

以上を註釈によって説示するために，「如来［達］」云々と言うのである。「色身に住して」というのは，「受用身に住して」である。「法界」というのは，真如を自

性としてもつ法身である。「百の福徳によって把握され」というのは，「百」と言うのは例示であって，［これにより］福徳の集積が無限であることが言われている。福徳の集積が受用身の因であるからである。
「不可思議であり」というのは，十地に住する者より他の菩薩達の対象ではないからである。「様々な姿が存在する」というのは，瑠璃の自性をもつ等の体を示したものである。それこそが詳しく説示されたのが，「それはそれぞれの本質として」云々と言う。「このことから」というのは，「世間の人々が真実を確定することから」である。「今でも」というのは「現在でも」である。「*Mañjuśrī* よ」云々ということによって，如来が真如を自性としてもつが，その場合，生起も消滅も存在しないものとして［言われている］。「如来の加持によって」というのは，「法身の加持［によって］」である。

「そのような種類の法を教授される器となった」というのは，顛倒なき真実が説示される器となったからである。「その加持によって」というのは，「法身の加持によって」である。「石等［の他のもの］から［も］」云々という語によって，太鼓等［のすべての事物］がまとめられるべきである。「その威力によって」というのは，「法身の威力によって」である。「心・心所が活動を欠いたとしても」というのは，「無功用であったとしても」である。

参考文献

・Conze, Edward
1957: Vajracchedikā Prajñāpāramirā, Edited and Translation with Introduction and Grossary [Serie Orientale Rome XIII], Rome.

・Cabezón, Ignacio José
1992: A Dose of Emptiness, An Anotated Translation of the sTong thun chen mo of mKhas grub dge legs dpal bzang, State University of New York press.

・de Jong , J. W.
1977: Nāgārjuna's Mūlamadhyamakakārikā nāma Prajñā, [The Adyar Library Series vol.109], Chennai.

・江島　恵教（Ejima Yasunori）
1980 : 中観思想の展開—Bhāvaviveka 研究—, 春秋社.

・稲葉　正就（Inaba Syoju）
1966: チベット中世初期における般若中観論書の訳出(上)：仏教セミナー4 pp.15-33.
1967: チベット中世初期における般若中観論書の訳出(下)：仏教セミナー5 pp.13-25.

・磯田　熙文（Isoda Hirohumi）
1984: Abhayākaragupta 『Munimatālaṃkāra』(Text) (I), 東北大学文学部研究年報 vol.34 pp.320-251.
1987: Abhayākaragupta 『Munimatālaṃkāra』(Text) (II), 東北大学文学部研究年報 vol.37 pp.176-138.
1991: Abhayākaragupta 『Munimatālaṃkāra』(Text) (II), 東北大学文学部研究年報 vol.41 pp.188-147.
1998: Abhayākaragupta 『Munimatālaṃkāra』(Text) 第 II 章, 東北大学文学部研究年報 vol.48 pp.304-273.
1999:『Munimatālaṃkāra』第三章(2), 印度哲学仏教学 vol.14 pp. 70-87.
2000a:『Munimatālaṃkāra』第 3 章(1), 戸崎宏正博士古稀記念論文集『インドの文化と論理』pp.181-198 所収.
2000b: 『Munimatālaṃkāra』第三章(3), 高木訷元博士古稀記念論集『仏教文化の諸相』pp.457-476 所収.

・Johnston, E. H.
1950: The Ratnagotravibhāga Mahāyānottratantraśāstra, Patna.

・木村　高尉（Kimura Takayasu）, 大塚　伸夫（Ōtsuka Nobuo）, 木村　秀明（Kimura Hideaki）, 高橋　尚夫（Takahashi Hisao）
2004 : 梵文校訂『智光明莊嚴經』 Sarvabuddhaviṣayāvatārajñānālokālaṃkāra nāma mahāyanasūtra Sanskrit Text, 小野塚幾澄博士古稀記念論文集『空海の思想と文化』 pp.596-508 所収.

・la Vallée Poussin, Louis de (=LVP)
1907-12: Madhyamakāvatāra par Candrakīrti. [Bibliotheca Buddhica 9], St. Pétersbourg (repr. Motilal Banalasidass 1992).
1903-13: Mūlamadhyamakakārikās （Mādhyamikasūtras） de Nāgārjuna avec la Prasannapadā Commentaire de Candrakīrti. [Bibliotheca Buddhica 4], St. Pétersbourg, 1903-1913, (repr. Motilal Banalasidass 1992).

・Lévi, Sylvain
1907: Mahāyāna-sūtrālaṃkāra, Exposé de la doctrine du grand véhicle, Tome I-II, Paris, (repr. 臨川書店 1983).

・西尾　京雄（Nishio Kyōo）
1940: 仏地経論之研究, part1&2, 破塵閣.

・Roerich, George N.
1949: The Blue Annals, Parts I&II (Bound in One), Culcutta, (repr. Motilal Banalasidass 1976).

・Ruegg, David Seyfor
1981: The Literature of Madhyamaka school of Philosophy in India, A History of Indian Literature Vol. VII Fasc.1, Otto Hrrassowitz, Wiesbaden.

・Skilling, Peter
1990: A Possible Citation of Candragomin's Lost *Kāyatrayāvatāra, The Journal of the International Association of Buddhist Studies, vo.13-1 pp.41-51.

・佐久間　秀範（Sakuma Hidenori）
1992: Candragomin の失われた『三身論入門』, 東方学 vol.86 pp144-132.
1993: A Sketch of Candragomin's Buddhakāya Theory, 印度学仏教学研究 vol.40-1 pp.41-51.

・Tatz Mark
1982: The life of Candragomin from Tibetan Sources, Tibet Journal vol.7-3 pp3-22.

・Tauscher, Hermut
1981: Candrakīrti Madhyamakāvatāraḥ und Madhyamakāvatārabhāṣyam (Kapitel VI, Vers 166-226) [Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismskunde Heft 5.], Wien.
1989: Verse-Index of Candrakīti's Madhyamakāvatāra (Tibetan versions) [Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismskunde Heft 22.] , Wien.

・ツルティム・ケサン（Tsultrim Kelsang），藤仲　孝司（Fujinaka Takashi）
2002: ツォンカパ 中観哲学の研究 V,（追贈）ダライ・ラマ一世ゲンドゥンドゥプ著『入中論の意趣善明の鏡』，文栄堂.

・van der Kuijp, L. W. J.
1993: Jayānanda A twelfth century *Guoshi* from Kashimir among the Tangut, Central Asiatic Journal 34(3/4) pp. 188-197.

・Vose, A. Kevin
2009: Resurrecting Candrakīrti, *Disputes in the Tibetan Creation of Prāsaṅgika*, Wisdam Publication.

・Ye Shaoyong
2009: A preliminary survey of Sanskrit manuscripts od Madhyamaka texts preserved in the Tibet Autonomous Region, Sanskrit manuscripts in China, Preceedings of a panel at the 2008 Bejin Seminar on Tibetan Studies October 13 to 17 pp.307-335.

・吉水　千鶴子（Yoshimizu Chizuko）
1991: ゲルク派より見た「誤った中観説」の担い手たち，成田山仏教研究所紀要 vol.14 pp151-181.

・Yonezawa Yoshiyasu（米澤　嘉康）
2007: *Lakṣaṇaṭīkā* Sanskrit Notes on the *Madhyamakāvatārabhāṣya* Chapter I Revised : Essays on the Sanskrit and Buddhist Culture, Prof. Y. Matsunami's Felicitation

Volume presented to him on his seventieth birthday（松濤誠達先生古稀記念　梵文学研究論集）pp.583~398.

大正大学綜合佛教研究所研究生
Reserch Student,
The Institute for Comprehensive Studies of Buddhism
Taisho University
Tokyo, Japan